

道外研修 東北コース(3日目)

報告者: 1年D組 27番 飯田真子、1年F組 41番 中川真里亜

3日目は唐桑半島でのフィールドワークを行いました。

唐桑半島ビジターセンターから出発し、ガイドの千葉さんの案内のもと、唐桑の地形や津波石などを観察しました。周りを見ると、北海道にはない竹林や椿などを見ることができました。生態系の違いの他、家の構造や苗字の由来なども北海道と違いがあり、驚きました。津波石の観察では、震災時の津波が私たちの想像を超える威力を持っていたことを実感しました。千葉さんの話によると、津波が来る前と来た後では風景はだいぶ変わってしまったそうです。

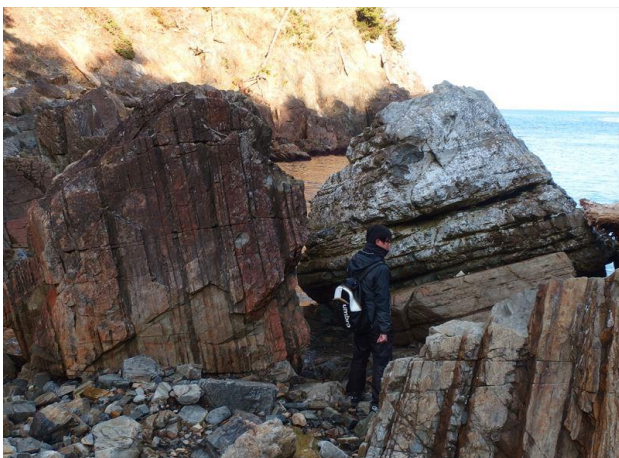


図1 津波石

図1は、津波石の写真です。人間が横に並ぶとその大きさがよくわかります。津波の流れでこの大きさの石が海底から上がってきたそうです。実際に見て、私たちの想像していたものよりも津波の威力が凄まじかったことがよくわかりました。



図2 説明を受けている様子

図2は、千葉さんに唐桑について説明を受けている様子です。リアス海岸はとても複雑な地形をしており、津波の被害が大きくなってしまったそうです。震災時、私たちが歩いていた道まで波が迫っていたことが信じられず、津波の恐ろしさを感じました。

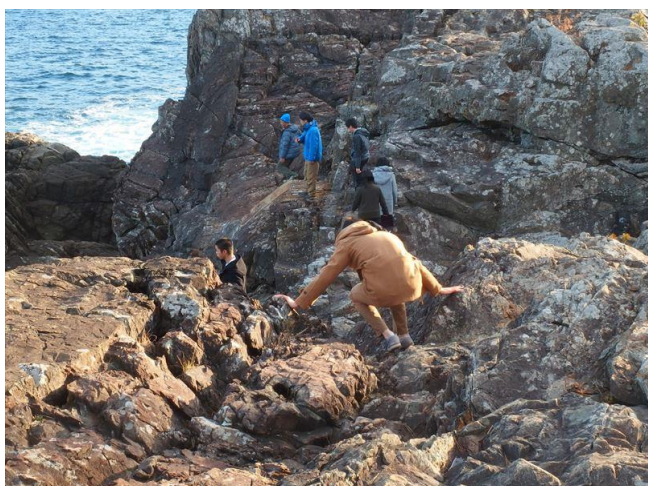


図3 海岸の観察

図3は、海岸の観察の様子です。実際に海岸付近までおりて、観察しました。波の勢いが凄まじかったです。観察が終わると、がんづきというお菓子を全員で食べました。がんづきは東北の郷土料理で、カステラと蒸しパンの間のような食感でした。自然の他にもこのような文化を知ることができて良かったです。

唐桑半島のフィールドワークを終え、出発地点である唐桑半島ビジターセンター「津波体験館」で、津波の疑似体験をしました。ここは、日本で最初の「津波体験施設」です。ここでは、震度3の揺れや風を体感し、大きなスクリーンには津波の映像が流れるなど、とても迫力がありました。映像には、実際の津波の様子や、津波の被害に遭われた方のインタビューなどを見ることができ、北海道ではあまり体験のできないので貴重な体験になりました。

その後、ビジターセンター職員の小松さんから、ビジターセンター内に展示されている津波の写真や唐桑半島の地形について説明していただきました。過去に襲った明治三陸津波やチリ地震津波、東日本大震災の写真や絵などが飾られており、とてもリアルで恐怖を感じました。

その他にも、津波が起こる仕組みが水槽で分かる模型なども展示してあり、改めて津波の恐ろしさや迫力が伝わってきました。

売店には、気仙沼市のPRキャラクターである「ホヤぼーや」のグッズが売ってあったり、復興関連商品が売っていて、北海道にはない商品がたくさんあり、興味深かったです。



図4 過去の写真を見ている様子

図4はビジターセンター内の写真でボードには、津波や地震の写真が貼られていました。過去の震災の様子がよく分かりました。奥には津波発生の様子がわかる装置がありました。このように過去の被害についてわかる場所があると、次の世代の人たちに伝えることができ、次に起こる災害での意識が高まるのではないのでしょうか。